

- 1 「あかるい超高齢社会」を考えるシンポジウムを開催  
・世界に先駆け、脂肪細胞を用いた遺伝子治療研究を開始
- 2 (千葉市認知症疾患医療センター)  
認知症の悩みを軽減するために… 電話相談や公開講座を行っています  
・チーバくんといっしょに「看護週間」  
・患者さんの声
- 3 フレッシュヤーズVOICE  
・[ミニニュース]韓国仁済(インジェ)大学から交換留学生が勉強に/  
小児病棟を5頭のセラピードッグが訪問
- 4 [フリートーク]肝胆脾外科 教授/病院長 宮崎勝  
・[トピックス]日焼け  
・[ちばをてくてく]◎千葉港めぐり 遊覧船



千葉大学医学部附属病院 〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1  
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

ホームページで「病院ニュース」のバックナンバーをご覧いただけます。

# 「あかるい超高齢社会」を考えるシンポジウムを開催

## 超高齢社会(高齢化率21%以上)を乗り切るために

はじめに文部科学省から、本学の取り組みに対する期待が表明され、厚生労働省からは、介護保険制度の話を中心に超高齢社会について、わか

「超高齢社会」とは、高齢化率(65歳以上の人口の割合)が21%を超える社会のこと。千葉県はすでに超高齢社会に突入していますが、2025年には、ほぼ国民の3人に1人が高齢者となります。この超高齢社会を乗り切るために、千葉大学病院では昨年「高齢社会医療政策研究部」を発足し、活動を始めています。

4月9日(火)に西千葉キャンパス けやき会館で開催された「第2回高齢社会を考えるシンポジウム 千葉大学と超高齢社会」も、そんな活動の一つ。大学全体で超高齢社会に取り組んでいくこと、千葉大学が企画したものです。



パネルディスカッションでは、千葉大学から高林克己日副病院長、倉阪秀史教授をはじめ、5名のコーディネーターが参加しました



シンポジウム当日の様子はホームページでご覧になれます  
[http://www.ho.chiba-u.ac.jp/hpas/symposium130409\\_report.html](http://www.ho.chiba-u.ac.jp/hpas/symposium130409_report.html)

(高齢社会医療政策研究部 部長 高林克己)

千葉大学では、これを契機に、研究、教育をさらに進めてまいります。次回シンポジウムは、大学祭期間中の11月2日(土)千葉大学西千葉キャンパスで開催します。多くの方のご参加をお待ちしています。

「あかるい超高齢社会」と題したパネルディスカッションでは、人文社会科学研究所、医学研究院、看護学研究所、工学部建築学科の教員が、超高齢社会に向けた医療やまちの取り組みを紹介。また、シンポジウムを企画した高齢社会医療政策研究部も、超高齢社会の医療状況についての研究発表を行い、さらに具体的な研究が必要であることを訴えました。

開催前からメディアに取り上げられることも多く、当日は300名を超す参加があり、大盛況のうちに閉幕。多くの分野で、超高齢社会に皆さまの関心が寄せられていることに改めて気づかされました。

### いのはなコラム

#### 屋久島の森に誘われて

屋久島に魅入られています。

4年ほど前、世界遺産を年に1つは見てみようと思ひ、訪れたのが出会い。小雨降る中、ガイドさんと山に入ると、湿った苔が岩や木々を覆い、スーッと伸びた杉の間を霧が立ち込め、小川の水音が遠くに聞こえます。そんな場所でガイドさんが豆から挽いて淹れてくれたコーヒーをいただき、静かな深い森を感じていました。

翌日は、縄文杉近くの山小屋で1泊する予定で山へ。木々や苔、苔やシダなどを堪能し、一歩ずつ足を進めていきます。夜は雨でしたが、テントに近づくと何者か(おそらく屋久シカ)が来ていたのでしょうか。の気配を感じながら眠りにつきました。朝には雨も上がり、縄文杉も独り占め。朝の森は湿気を言ひながら、朝日でキラキラ輝き幻想的でした。それからは夏休みなどを利用して毎年1、2回は、屋久島を訪れるように。今ではすっかり屋久島の森の虜です。

(看護部 江幡 智栄)



高塚小屋の朝の森



屋久島の縄文杉

## 世界に先駆け、脂肪細胞を用いた遺伝子治療研究を開始

千葉大学病院では、厚生労働省の承認を得て、家族性LCAT(レシチン:コレステロールアシルトランスフェラーゼ)欠損症の遺伝子治療の臨床研究を開始します。これは、生まれつき血液中の酵素を欠くために、著しい低HDLコレステロール血症や腎障害、角膜混濁などの重い症状を示す病気です。

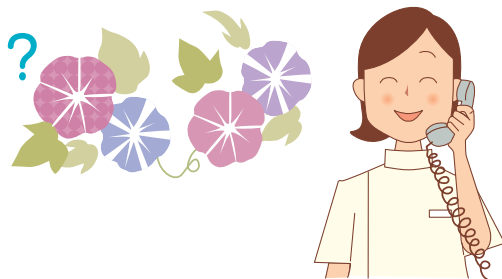
この治療法では、患者さん自身の脂肪組織から細胞を採取して体の外で増やし、遺伝的に失われているLCAT遺伝子を人工的に導入します。そして、LCAT蛋白を作ることができるようになった脂肪細胞を再び患者さんへ移植し、蛋白を持続的に体内へ補充するというものです。

この技術は、患者さん自身の細胞を用いるため、拒絶反応の心配がなく、今後、LCAT欠損症だけでなく、血友病やライソゾーム病など、多くの難病の治療法開発にも役立つことが期待されます。

(糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 横手幸太郎)



# 「千葉市認知症疾患医療センター」をご存じですか？ 認知症の悩みを軽減するために… 電話相談や公開講座を行っています



「認知症」になるリスクは、5歳ごとに2倍になり、90歳以上では2人に1人が発症するとされています。65歳以上の人口が21%を超え、超高齢社会を迎えた日本にとって、「認知症の人やその家族などの悩み」を軽減することは重要な課題です。

そこで千葉大学病院では、昨年4月、千葉市の委託と千葉市医師会の協力により、「千葉市認知症疾患医療センター」を設置。認知症相談窓口では「認知症はどこに受診していいか、わからない」など、受診の場所や方法、介護の方法、病気や内服薬の知識、認知症についての疑問にお答えしています。寄せられた電話相談は、この1年で321件ののぼりました。

認知症かどうかを判断したい人などのために、神経内科の「物忘れ外来」では、毎週月曜の午後、神経内科、精神神経科が連携しながら診療を行っています（要予約）。必要に応じて外科・内科をはじめ、薬剤部や検査部、リハ



千葉市グループホーム連絡会の「認知症ケア研修会」  
平野成樹医師の講演を聞く、介護職の方たち

ビリテーション部など大病院ならではの多職種協働で、多くの合併症がある患者さんに対応しています。

さらに、地域の皆さんに認知症の正しい理解や対応方法、生活の留意点を広めようと、認知症サポーター養成講座、千葉市あんしんケアセンター（地域包括支援センター）の事例検討会などの講演も実施。すでに24件、1710名が受講しています。

認知症の悩みと向き合う力には、早期の診断、治療、よい介護です。これからも地域医療を支え、啓発活動を通じた「より安心して暮らせる地域づくり」に貢献してまいります。

千葉市認知症疾患医療センター長  
桑原 聡



## 認知症相談窓口

認知症の相談、物忘れ外来の予約、講演のお問い合わせ等は、以下にご連絡ください。  
TEL: 043-226-2736 (直通)  
月曜日～金曜日9:00～12:00



認知症の人と家族、介護者、医療者の3者をイメージしてオレンジの花をあしらったロゴマークです

## 看護の心、ケアの心、助け合いの心を「チーバくん」といっしょに「看護週間」



患者さんにも大人気のチーバくん、コンサートも盛り上げてくれました



「正しい手洗い」を体験中、きれいに洗えたかな？

5月15日と16日に「看護週間」のイベントを開催しました。「看護週間」とは、近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日が5月12日であることにちなみ、看護の心、ケアの心、助け合いの心と呼びかけ、看護を身近に感じていただくための1週間です。

初日には、今年初めての企画として看護師を中心としたメンバーでコンサートを行い、医師やリハビリテーション部とのコラボグループも参加し、多くの方に聴いていただくことができました。

2日目には、「命を救う」一次救命訓練「おむつの豆知識」「正しい手洗い」など、5つの看護体験コーナーを設け、小さなお子さまをはじめ幅広い年齢の方々に看護を体験していただきました。

期間中は、今年も「チーバくん」が応援に来て、イベントを盛り上げてくれました。患者さんだけではなく、職員も一緒に楽しんでいましたよ。

このイベントは、来年も開催する予定です。

## 患者さんの

# 声

皆さまからこんな声が届きました。  
患者さんの声にお答えします。

### ご要望

**Q** 手術をしていただき、入院しての感想です。素晴らしい病棟でしたが、一つ改善してほしい点があります。ナースセンターからの放送です。私は問題ありませんが、耳の遠い方などは聞き取りづらいとおっしゃっていました。改善することはできないでしょうか。

**A** ナースセンターからの放送が聞き取りづらいと感じられる患者さまがいらつしゃったとのこと。さっそく、ベッドのスピーカー音量を確認し、看護師・医師にも分かりやすく放送するように、注意をいたしております。このたびは、貴重なご指摘をいただき、ありがとうございました。

### お便り

入院中には、医師や看護師の方々にはお世話になりました。どうもありがとうございます。

皆さんからエネルギーをいただきましたが、受付の方が、いつも笑顔で言葉をかけてくれたことが忘れられません。提出書類を作る際には、優しく面倒をみてくれたり、電話対応もよく、誰にでも平等に優しくしていただき、心も体も癒やされました。



# (((フレッシュャーズVOICE)))

4月から研修医39名、看護師119名を含む442名が、新しく病院スタッフに。代表して3名のフレッシュャーズに話をききました。

## 患者さんの数だけ、看護の仕方もある



看護師 荻込隆弘 (ICU・CCU)  
 ●勝浦市出身  
 ●座右の銘：渾身戦えば悔いなし。  
 ●趣味：走ること。  
 フルマラソンにも出てみたい。

誰かの力になれる仕事をしたくて、看護師を選びました。中学2年頃にはもう決めていました。親にも話していましたが、本当になるとは思っていなかったようです。

インターンシップに参加したときに初めて救急部の方と仕事をしたのですが、なごやかな雰囲気だったので、この人たちといっしょに看護がしたいと思います、この病院を選びました。

ICU・CCUには看護師だけで81名もいます。いろいろなタイプの看護師がいて、患者さんに合わせた看護の仕方をしています。

手術後や急患など、病状が安定していない患者さんを見ることが多い部署なので、緊張の連続です。ひとつでも患者さんのサインを見逃してしまつと、取り返しのつかないことになりかねないので、責任の大きさを感じます。

今はまだ、救急で運ばれて来た患者さんの担当はしていませんが、人を助けるためにバリバリ働く先輩たちはカッコいいし、自分もこうなりたいと思います。

## 患者さんのいちばん身近な人として いるのが看護師



看護師 岡崎有紀 (にし棟9階)  
 ●新潟県出身  
 ●座右の銘：継続は力なり  
 ●趣味：バスケットボールとピアノ

小学生のとき、祖母がくも膜下出血で入院し、手術をしました。幸い祖母は回復し、今も元気ですが、子どもながらに病気の前では人は無力なのだと感じました。そのときに支えてくれた看護師さんたちの働きぶりを見て、患者さんのいちばん身近な存在が看護師なのかなと感じ、医療職を目指すようになりました。

新人として、どこで育つかがいちばん大事と大学の先生から言われたこともあり、研修制度が優れていると感じた千葉大学病院を選びました。

現場に出てからは、自分の知識不足を実感しました。大学で勉強していた知識だけでは現場では全然足りなくて、最初はそのギャップにびっくりしました。

一年目の今は、きちんと仕事を覚えて知識や技術を身につけて一人前の看護師になり、患者さんに質の高い看護を提供できるようになることが第一です。それから関心をもつ分野の学びを深めていきたいと考えています。大きな意味で医療に貢献したいと思っています。

## 冷静に判断し、原因を探って 適切に処置できる医師に



研修医 伊藤竜 (救急部)  
 ●東京都出身  
 ●座右の銘：急がば回れ  
 ●趣味：大学時代はボクシング、熱帯魚飼育(古代魚ポリプテルス)

医師をめざしたのは11歳くらい。医学に興味があったことがいちばんの理由ですが、当時、「白い巨塔」などの医療ドラマが流行っていて、そんな影響も受けているのかもしれない。

救急部に勤務するようになって気づいたことは、スタッフ全員が絶え間なく動いていること。たとえば、病院内で患者さんに何かが起こったとき、応援医師を呼び出しますが、皆さん行動が早くて正確。何も言わなくても役割分担をして、チームプレーが瞬時にできているのです。

今は目先の症状にとらわれてしまつて、何が原因かを見抜く力がないので、冷静に判断し、かつ、きちんと原因を探って適切に処置できるようにになりたい。つまり、一人前の医者になりたいです。

一年目の今は、わからないことは誰にでも聞くことが、できる限り手や体を動かして、無駄な時間がないようにしています。「まずは行動から」と思っているのでも、それを心がけて動いています。



## mini news

### 韓国仁済大学から交換留学生在が勉強に

千葉大学医学部では、アメリカなどの海外の大学と交流協定を結び、相互に学生を教育しています。そのうちの一つ、韓国の仁済大学医学部から3名の6年生が、5月7日～31日まで、「クリニカル・クラシック実習」を行いました。担当医師の指導の下、千葉大の学生と一緒に患者さんの診察や検査を見学したり、日本の医療制度を学んだりしました。留学生たちからは、「皆さんとても親切で、勉強になりました」との感想をいただきました。



韓国の仁済大学医学部から来た留学生たち

### 小児病棟を5頭のセラピードッグが訪問

4月24日、小児病棟のクリーンルームに、トイプードルやドーベルマンなど、「セラピードッグ」5頭がやってきました。これは、日本動物病院福祉協会が行っている「人と動物のふれあい活動」の一環。最初は緊張気味だった子どもたちも、背中を擦ったり、抱っこをしたり、餌を与えたり…。病室から出られない子どもたちは、ガラス越しに手を合わせたりして楽しい時間を過ごしました。



動物と触れ合って、子どもたちが笑顔に

千葉大学病院では今後も、定期的なセラピードッグの訪問を実施していきます。

## 看護師・助産師 募集

平成26年度新採用  
 中途採用  
 同時募集

## 心と技と責任の

その重さを知っている人。  
 それが、千葉大学医学部附属病院の看護師です。

- 資格：平成26年3月卒業見込みで、看護師・助産師免許取得見込みの方又はすでに免許を取得されている方
- 待遇：当院規定により優遇します
- 応募：履歴書・看護師等の免許証(新卒の方は成績証明書)を郵送ください。なお、選考日・応募先については本院HPを参照してください。※中途採用応募の場合は、事前に電話でご連絡ください。
- 応募またはお問い合わせ先  
 TEL: 043-222-7171  
 総務課人事係(内線6020) 看護部事務室(内線6610)



千葉大学医学部附属病院

詳しくは看護部ホームページから <http://www.chiba-kangobu.jp/>

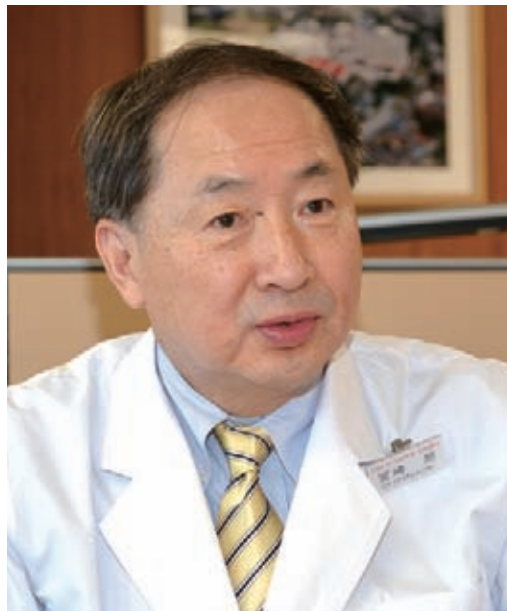
Heart, Skill & Responsibility



# 限界を超えると、次の限界が見えてくる、アスリートと同じです



千葉大学医学部附属病院  
肝胆膵外科 教授/病院長  
みやざき まさる  
**宮崎 勝**



## 目の前の「限界」を超える

肝臓、膵臓、胆道(胆管、胆のう)と、その領域に外科的治療をすることで治る病気、特に肝胆膵がんが専門になります。肝胆膵は、移植を別にする、いまの外科手術では、心臓外科とともに手術死亡するリスクが低く、外科医の技術がもっとも大きく影響する領域と言えらると思います。

この分野を志したのは、第一外科に入局して5、6年たった頃。当時は肝臓にがんができる、もう手術は不可能でした。自分で手術をするようになる前のことですが、これ以上の治療ができないという事実を目の当たりにして、「そこにはかない病気をなぜ治せないんだらう」「できるようなればいいなあ」と思ったんですね。

難易度の高い胆道がんの手術を始めた頃、今の技術なら回復させられた患者さんを術後肝不全で亡

くしたことがあります。ICUで患者さんのお子さんが泣いていて、その親子のことは、今でもはっきり覚えています。死亡率は当時12%で、現在は5%。手術が失敗したわけはありませんが、自身への悔しさがあって辛かったです。難しい手術だからこそ、やるからには、悲しむ人をなくしたいです。

その頃から、できない、治せないという目の前の「限界」を超えようとしてきましたね。そして、限界を一つ超えると、また次の「限界」を超えようと思っんです。アスリートと同じです。

## 難しい手術をチャレンジする

エポックメイキングといえるのが、1995年に発表した「左の腎静脈を用いた門脈再建」という論文です。当時、腎臓がんが肝臓に進展するなどの患者さんで、泌尿器科の手術を手伝う機会が多く、そ

のなかで左の腎臓にある静脈は生体に影響なく取れることを経験しました。このことを自分の専門分野に応用し、7年ほどかけて論文にまとめました。この頃からですね、この分野を面白い、やることにまだたくさんあると思ったのは、若い医師たちには、難しいことにチャレンジしてほしいですね。そうでないと、医療は進歩しません。新しい発見は教科書にはありません。皆がいまの教科書に載っていることだけを学んでそれよしとしたら、100年経ってもいまの医療のレベルから進歩しませんから。

患者さんにはいつも勇気をもらっています。患者さんによく言うのは、チーム医療という言葉があるけれど、「患者さんも医療チームの一員として治療していきましよう」ということ。私たちは医療を供与する側だけれども、患者さんも仲間になって、大変だけれど一緒にがんばりましょうねと声をかけています。

### Profile

**宮崎 勝** (みやざき まさる)

千葉県出身。昭和50年、千葉大学医学部卒業後、千葉大学医学部第一外科に入局。海外留学経験等を経て、平成13年～千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教授。平成23年～千葉大学医学部附属病院院長、千葉大学副学長。  
妻と長女は薬剤師、長男は脳外科医。休日にもまず患者さんを診るのがモットーで、「運動会に来てくれなかった」と、子どもたちからは未だに皮肉を言われるとか。スポーツが好きで、時間があればジョギングを楽しむ。国際学会で海外に行ったときに、その地で走るのも楽しみ。

## ちばをてくてく 10 千葉港めぐり 遊覧船

### 潮風に吹かれて、工場めぐりの船の旅

千葉港を巡る「あるめりあ」号をご存じですか？二階建ての小さな観光船で、毎日13時30分から、お客さんを乗せて「千葉港めぐり」をしているのです。所要時間約40分の小さな船旅です。

千葉ポートタワー近くにある観光船発着所を出発すると、千葉中央ふ頭をぐるりと一周。高さ125メートルのポートタワーや、コンテナ船が入船していれば、コンテナターミナルでの荷物の積みおろしなども眺めることができます。

このコース、食品コンビナートや成田空港へのジェット燃料の油送基地、製鉄工場などを海側から眺められる「工場めぐりの船旅」としても人気を集めています。夏休みの自由研究などのヒントになるかもしれませんね。

日・祝日には、幕張テクノガーデンやワールドビジネスガーデンなどの高層ビル群、幕張メッセ、千葉マリンスタジアムなどを船上から眺められる「幕張メッセ沖合遊覧コース」も運航しています。夏といえば、納涼船。ドリンク飲み放題サービス付きの「サマーナイトクルージング」も人気です(7月1日～8月31日まで)。

#### ◎千葉ポートサービス

千葉市中央区中央港1-6-1  
TEL:043-242-4568  
JR京葉線千葉みなと駅・千葉モノレール  
市役所前駅から徒歩約10分  
<http://www.chiba-port.com>



運が良ければ、カモメに出会えることも

## トピックス

### 『日焼け』老若男女を問わず対策を

今年も日差しの強い季節の到来です。太陽光は、目に見える光以外に見えない光を含んでいます。そのなかで赤外線は肌にあたると熱感として感じますが、紫外線は何も感じません。地表にとどく紫外線は目に見える光より波長が短くUVAとUVBに分かれます。

日焼けは、紫外線を浴び過ぎて肌が赤くなったり、水ぶくれになったり、その後に、褐色になった状態をいいます(おもにUVBの作用)。慢性的にはシミの原因になるほか、皮膚腫瘍の発生に関与します。

UVAは、普通のガラスは通り抜け、肌の深くまで達します。長年にわたり慢性的に浴びる機会が多いと、加齢による老化と一緒に皮膚のしわ、たるみの形成に関与します。

したがって、美肌を気にする女性ばかりではなく、老若男女を問わず、ど

ちらの紫外線に対してもできるだけ肌に浴びない対策が必要です。

日常生活に取り入れやすい対策としては、紫外線の強い時間帯の外出をできるだけ避け、日陰、日傘、帽子の利用、素材を含め衣服の工夫、そして何よりも日焼け止めクリームを上手に使うことです。ムラなく(二度塗り)、こまめに(2～3時間ごとに)、曇りの日でも。

(皮膚科 教授 松江弘之)



### あとがき

大学病院の使命の一つに医療者の育成があります。優れた医療と快適な療養環境がなければ、患者さんが集まらないと同様に、優れた医療と快適な学習環境がないと、優れた医療者の卵は集まらず、長い目で見ると将来の医療の担い手が不足することにつながります。国内外の大学との交流を通じて新しい教育方法を取り入れたら、

シミュレーターを使って繰り返しケアや診療手技の練習をしたり、教育方法も時代につれ変化してきていますが、実際の経験を通して成長していくことが、最も大切な部分であることはいうまでもありません。患者さんを中心に病院にかかわる人すべてで医療者を育てていきましょう。(編集委員 総合医療教育研修センター 朝比奈真由美)